

西伊豆健育会病院

症 例 概 要 患者：90歳代女性

病名：右大腿骨頸部骨折

入院期間：令和6年11月～

入院までの経過：超高齢で独身独居女性。自宅先で転倒し受傷するも救急隊と当院の連携にて円滑に救急対応され患者さんの苦痛が最低限に抑えられた。院内のみならず、外部とも連携した介入ができていたため、早期にフリーハンド歩行の獲得が得られ患者さんの願いに沿った自宅退院へと向かう事ができた。

内 容

西伊豆健育会病院は、西伊豆エリア唯一の救急病院として、地域の命を守り続けています。周囲には他の救急病院がなく、山を越える必要があるため、当院に搬送される患者さんが多く、他の病院で救急診療を拒否されることもしばしばです。しかし、当院は一切救急を断ることがないため、地域の救急隊は「まずは西伊豆へ」と、当院への搬送を選んでいきます。こうした地域との強い連携により、患者さんに安心して身を委ねていただける環境を作り上げています。実際に、患者さんから「安心して身を任せることができた」との言葉を頂戴しています。

当院では、医師、看護師、放射線技師、検査技師、クラーク等が一丸となり、患者さんの治療に取り組んでいます。救急搬送された患者さんが到着した瞬間から、診療と対応がスムーズに行われ、苦痛を最小限に抑えることができています。手術の際も、整形外科医の指示のもと、看護師や外部エンジニアが緊密に連携し、バイタルサインの評価や器具の選定を適切に行い、安心・安全な手術が実現しています。

手術後のリハビリでは、リハビリスタッフや病棟の看護師、介護士が一体となり、患者さんのADLの改善を目指して支援しています。また、管理栄養士は栄養状態を詳細に評価し、医師と連携して適切な栄養改善を提案するなど、患者さん一人ひとりに合わせた包括的なケアを行っています。その結果、超高齢でかつフレイル状態であった本症例は、わずか3週間でフリーハンド歩行によるADL自立を達成しました。

さらに、この患者さんの希望である「自宅退院」を目指して、院内外の医療チームが一丸となりカンファレンスを行い、それぞれの専門職が自らの立場から意見を交わし、ひとつの目標に向かって取り組んでいます。現在、この患者さんは無事、自宅退院に向けた準備が進んでいます。

私たち西伊豆健育会病院は、院内のチームワークだけでなく、地域の外部医療従事者とも深く連携



しています。その結果、命を救い、患者さんの生活の質を高める支援ができています。私は、この「外部を含むチーム力こそが、私たち西伊豆健育会病院ならではの強みだ」と強く感じています。地域医療の大切さ、そしてチーム一丸となって患者さんに寄り添う姿勢を、これからも大切にしていきたいと思います。